

- 訓練日時 令和7年2月1日（土）7時00分から16時00分まで
- 訓練場所 三重県庁、南勢志摩・東紀州地域の病院・社会福祉施設など
- 訓練想定
  - ・ 1月30日（木）6時00分に過去最大規模の南海トラフ地震が発生
  - ・ 三重県DMAT調整本部のほか、県内4地域にDMAT活動拠点本部を設置
  - ・ 1月31日（金）、他県から参集した支援チームが一部の災害拠点病院等で活動開始
- 訓練内容
  - ・ DMAT調整本部運営訓練 @三重県庁
  - ・ DMAT活動拠点本部運営訓練 @三重県伊勢庁舎、松阪中央総合病院
  - ・ 病院避難訓練、患者受入支援訓練 @南勢志摩、東紀州地域の病院
  - ・ SCU訓練 @伊勢志摩広域防災拠点
- 参加機関
  - ・ 中部ブロック9県DMAT 113隊・609名
  - ・ 三重県内病院 15施設
  - ・ 社会福祉施設 8施設
  - ・ （関係機関）厚生労働省DMAT事務局、消防本部、陸上自衛隊、三重県防災航空隊、中日本航空株式会社など

# 三重県DMAT調整本部 活動概要

- 訓練場所 三重県議会棟 503 特別会議室
- 参集DMAT 県内・県外DMAT 5隊程度



↑ 三重県DMAT調整本部で活動する様子

## 本部長として活動する谷口医師



← 本部長として活動する谷口医師

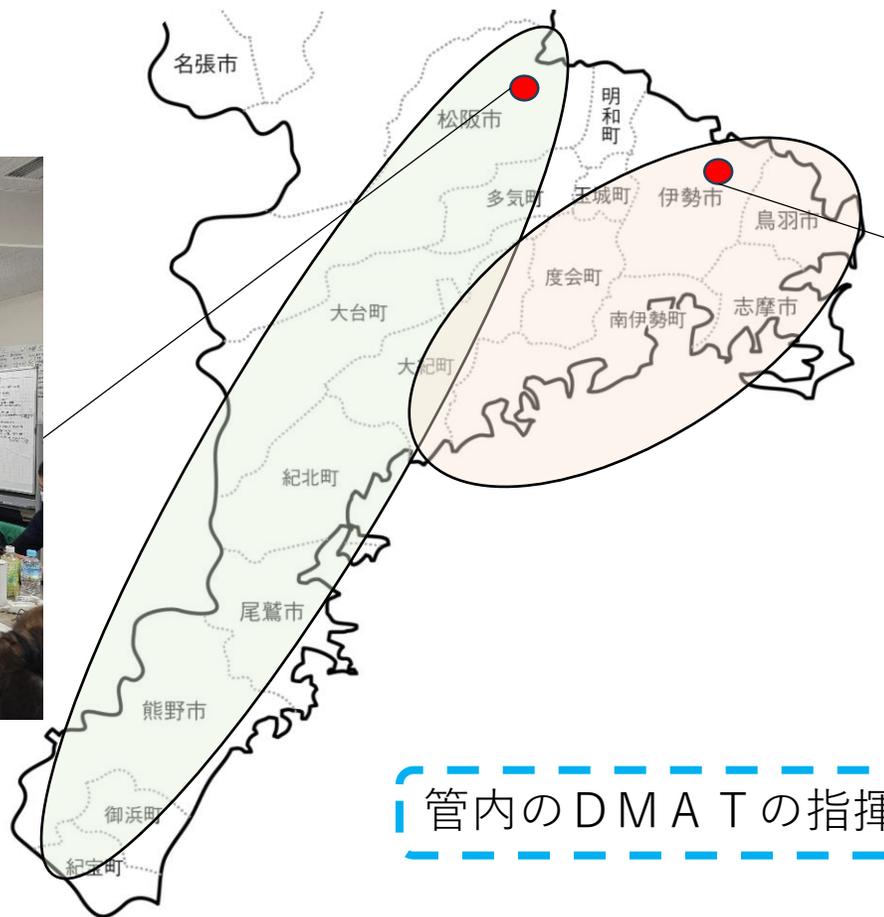


# DMA T 活動拠点本部 活動概要

○ 訓練場所 三重県伊勢庁舎 (伊勢志摩地域DMA T 活動拠点本部)  
松阪中央総合病院 (松阪・東紀州地域DMA T 活動拠点本部)

○ 参集DMA T 県内・県外DMA T 77 隊程度

松阪・東紀州地域DMA T 活動拠点本部  
で活動する様子 ↓



↑ 伊勢志摩地域DMA T 活動拠点本部  
で活動する様子

管内のDMA T の指揮・調整を担う

- 訓練場所 三重県広域防災拠点 (伊勢志摩拠点)  
※今回は県営サンアリーナは使用せず
- 参集DMAT 県内・県外DMAT 11隊程度
- 役割 県外への広域医療搬送等



↑ ドクターヘリが着陸する様子



拠点倉庫内で活動する様子 →



↑ 本訓練では拠点倉庫を試用

# 中部ブロック D M A T 実動訓練 検証結果（課題）

## 【三重県 D M A T 調整本部】

- 議会棟 5 0 3 特別会議室を実動訓練で初めて活用したが、活動する人員に対して部屋が狭いなどの課題があった。

## 【D M A T 活動拠点本部】

- 「松阪・東紀州地域」は本来の二次医療圏とは異なるため、一定の課題があった。  
⇒ 災害発生時には東紀州地域が孤立することも想定されるため、  
より一層の東紀州地域における D M A T の養成が必要

## 【S C U（伊勢志摩広域防災拠点）】

- 現状の運営方法の課題を踏まえ今回は新たな運営方法を試みたが、別途課題が浮上したため、  
実災害で活用できる S C Uを整備する必要がある。
- ※ 設置に時間を要するため、S C Uを用いた重症患者の搬送は現実的に困難。  
⇒ 災害時における医療搬送体制について検討を行う（資料4）